

## 鹿追町瓜幕地区地下水調査報告 (その 2)\*

Ground water investigation in Urimaku area,  
Shikaoi Town, Hokkaido (part 2)

小原 常弘  
Tsunehiro OHARA

位置：調査地は十勝支庁管内鹿追町市街地の北北東約 8.8 km の瓜幕西 25 線 13 号に位置する (国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「然別湖」地内)。

水理地質：本地区の地質は、前報 (小原, 1985) と同様、下位より長流枝内層・屈足溶結凝灰岩層・洪山層・上然別凝灰岩層及び美蔓礫層で構成されている。長流枝内層は上部鮮新統とされ、砂岩・礫岩・シルト岩などからなる。屈足溶結凝灰岩層は第四系下部更新統とされ、軽石流を主体とし溶結部と非溶結部とからなる。下位の長流枝内層とは不整合関係、上位の洪山層とは整合関係にあり、洪山層の基底鍵層として重要である。洪山層は凝灰質シルト・砂・礫からなり一部に亜炭を挟む。上然別凝灰岩層は洪山層の下半部の層準に層厚 3 m+ で挟まれる軽石流堆積物である。美蔓礫層は標高 130~350 m の美蔓面を成す礫層で、溶結凝灰岩・安山岩類などの礫からなる (十勝団体研究会, 1978)。

前報で述べたように、長流枝内層が本地区の主要な容水地盤であることから、本井 (2 号井) も同層中の帯水層を調査対象層として試掘した。

試掘結果：1 号井の結果や利用上の便宜等を考慮

して試掘地点を決定し、パーカッション式により掘削した。その結果を第 1 図に示す。

揚水試験結果 (第 1 表) に見られるように、自然水位は約 85.5 m と低いが、比湧出量は約 2,000 m<sup>3</sup>/day・m と非常に大きい。しかし、補給量は不明なので使用に当たっては、水位の監視が重要である。1 号井と比較すると、地盤比高 41 m に対して自然水位の差は 35 m とやや小さい。比湧出量は約 10 倍と大きい。比湧出量が大きく異なる原因は、筆者の経験上、ストレーナー巻線の目幅 (1 号井：1 mm, 2 号井：2 mm) にあると考えている。目幅は最低 2.0 mm は必要である。水質は飲用適であった。

### 文 献

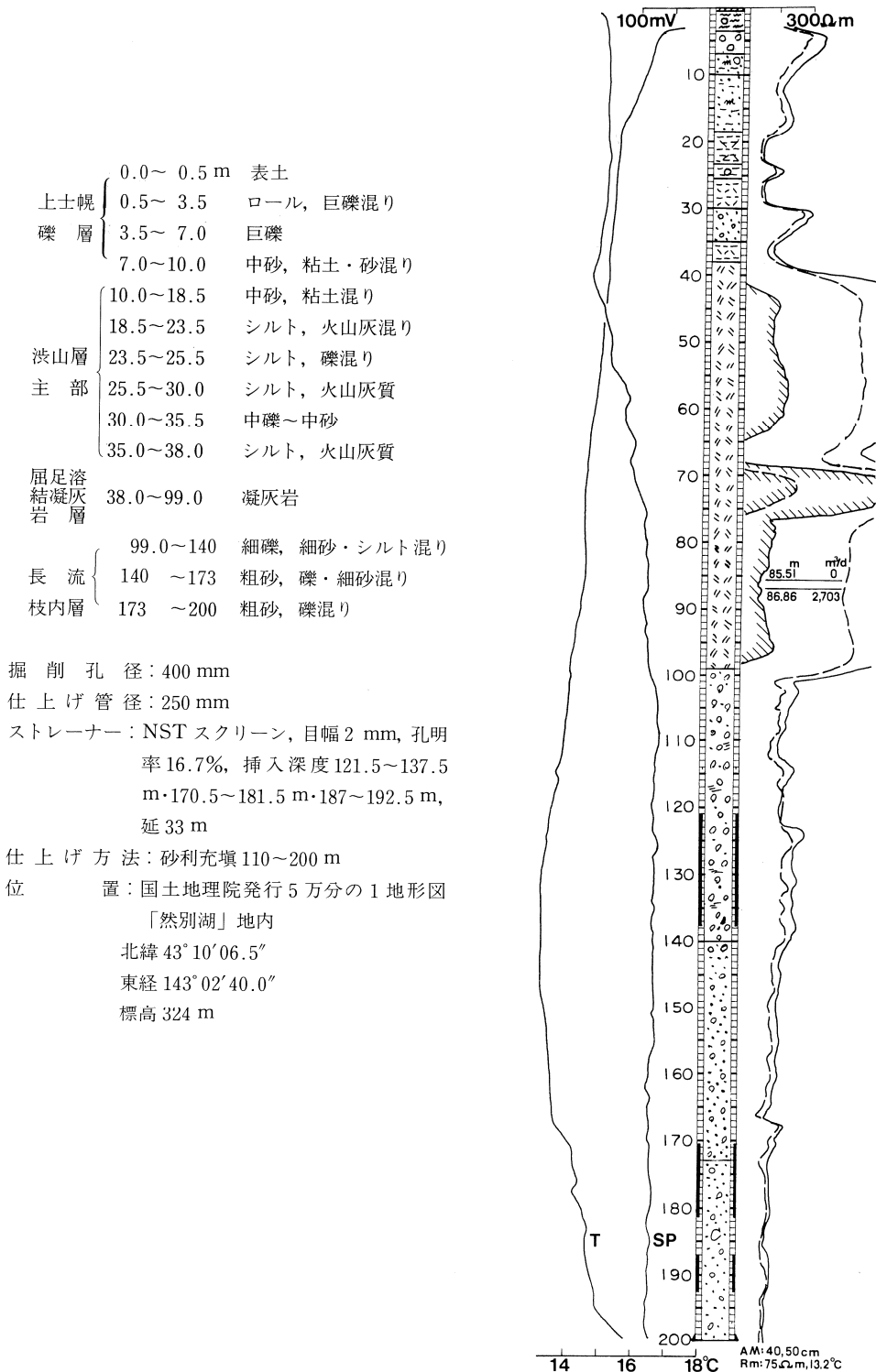
小原常弘 (1985)：鹿追町瓜幕地区地下水調査報告。地下資源調査所報告, No. 56, 85~86。  
十勝団体研究会編 (1978)：十勝平野, 地団研専報, 22, 433 P. 地学団体研究会。

第 1 表 揚水・回復試験成績  
Table 1 Summary of aquifer tests

段 階	自然水位 (m)	揚水水位 (m)	水位降下量 (m)	揚水量 (m <sup>3</sup> /d)	比湧出量 (m <sup>3</sup> /d・m)	区 間 比 湧 出 量 (m <sup>3</sup> /d・m)	回復水位 (m)	試験時間 (時間)
I	85.475	86.006	0.531	912	1,718	2,240		6
回 復							85.474	3
							85.475	24
II	85.475	86.390	0.951	1,853	1,948	2,152		6
回 復							85.513	3
							85.510	24
III	85.510	86.856	1.346	2,703	2,008			24
回 復							85.545	3
							85.480	24

(1984年 8 月 8 日~12 日)

\* この報告は鹿追町の依頼で技術指導した結果の要点をまとめたものである。



第1図 ボーリング地質柱状図  
**Fig. 1** Drilling columnar section.